

# 「こんな研究しています」

## 茅野市職員若手3人

# 尖石縄文 考古館 26日から成果発表

大学で考古学を専攻した茅野市の20代の若手職員3人が、縄文時代の文化や生活について、学生時代から現在も興味を持って取り組む調査、研究の成果を、それぞれ26日から9月にかけて市尖石縄文考古館で発表する。同館は、若いうちから自身の研究を一般の人に話す場になるとともに、地域住民や考古学に関心を持つ人に若い職員がこんな研究をしていると知ってもらおう機会にしたいと企画した。

(手塚洋一)

3人は教育委員会文化財課 古館係の上野楓さん(22)。発文化財係の吉村璃来さん(27)、商工課商業労政係の菅井佳穂さん(25)、文化財課考

のタイトルで、吉村さんは26

日、菅井さんは8月30

日、上野さんは9月27

日に行う。三人三様の

視点から縄文時代を掘

り下げる。吉村さん

は、八ヶ岳山麓では縄

文中期には多くの人が

が暮らしながら、出土

して今年で25年の国宝

土偶「仮面の女神」が作られ

たとされる縄文後期前半を境

に、人の数が大きく減っている

頃。墳の葬式や墓をテーマに語

る。「人がほとんどいなくな

っていく時期の、死生観を共

有する集団の文化の最後に関

してお話できれば」と準備

を進めている。仮面の女神と

ともに国宝に指定された土器

8点についても触れる予定。

菅井さんは、弥生時代との

境の縄文後晩期に種類が多様

化する墓を焦点に、墓の向き

ると作られなくなる直前の、縄文終末期の土偶についての研究を紹介したい考え。土偶はほとんどが破片で出土する状態で研究が進められることや、一般的に知られている縄文中期や晩期初めの土偶とは違った時期の様子を

「伝えられたら」と力を込める。いずれの日も時間は午後1時30分から。受講無料(資料がある場合は資料代100円。資料を購入しなくても受講できる)。館内の展示を鑑賞するには観覧料が必要。受講申し込みは不要で、定員は当日先着50人。問い合わせは同館(電話0266・76・2270)へ。



考古学に関するそれぞれの研究の成果を発表する茅野市職員の(左から)菅井佳穂さん、吉村璃来さん、上野楓さん